

令和3年度 海上技術コース(専攻)入学式

式 辞

海上技術コース(専攻)入学生のみなさんへ

海技大学校の傍を流れる宮川の美しい桜並木も満開となり、春本番の季節となりました。

本日、このよき日に、令和3年度海技大学校入学式を挙行できますことは、本校にとりまして大きな喜びであり、教職員を代表し、一言お祝いの言葉を申し上げます。

海上技術コース(専攻)第17期生の皆様、入学おめでとうございます。

海上技術コース(専攻)の皆様は、大学、大学院で修得した知識を基礎として、航海専攻は三級海技士(航海)、機関専攻は三級海技士(機関)の資格取得を目指して、本日より修業期間2年の三級海技士養成課程が始まります。大学、大学院では各専攻において特定の分野を深く学んできたことと思いますが、海上技術コース(専攻)においては、航海、機関の区別はありますが修得する内容は幅広く、多岐に渡っています。各科目に真摯に向き合い、航海士、機関士となるに必要な基礎を身につけてください。

皆様が今後身を置く船の世界は、新しい技術の導入により、大きくその姿を変えてきました。最近では、無人運航船、遠隔操縦船、あるいは水素、アンモニア燃料船等の名称を業界誌などで頻繁に目にします。近い将来、新しい技術の導入が更に進み無人運航船、遠隔操縦船が世界の海を航海し、推進プラントで使用する燃料は、重油、LNGを経て水素、アンモニア燃料に代わる日も、もはや夢物語では無いのかもしれませんが、しかしながら、どんなに技術が発達し、船員を取り巻く環境がいくら変化しようとも、船員のスキルは、船舶運航の核であることは明白です。皆様は、この2年間で船員スキルの基礎部分を

身に着けることになります。

習うは一生という諺があります。新しいことを知り、身に着けていくためには、人は、一生を通じ、常に学ばなければならないという意味です。三等航海士、三等機関士を皮切りに、将来、船長、機関長となるまで、数多くの新しい知識及び技術を身に着けていく必要があります。各職階で新たな勉強が必要となります。一生を通じて学ぶ姿勢を第一としてください。

皆様が生活する海技大学校は、勉学環境に恵まれた国際文化住宅都市である芦屋市にあります。北側には六甲山を仰ぎ見て、南側には茅渚の海と呼ばれる大阪湾を眺望できます。六甲山の美しい風景を楽しみながら、本校での学校生活に励んでいただきたいと思います。

海技大学校は、現在、新型コロナウイルス感染予防のため、ガイドラインを作り様々な取り組みを行っています。三密の回避、マスクの着用、手洗い励行を基本として、まず自分が感染しない、他人に感染させない行動を心がけ、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、無事に卒業されることを願っております。

最後に、本校での修学期間、健康には十分に留意するとともに、全員揃って無事に卒業し、初期の目標である三級海技士免許を取得されることを心から祈念いたしまして、簡単ですが、本日の式辞と致します。

令和3年4月7日

独立行政法人海技教育機構 海技大学校長 前田 潔